

主役はあなた！明日の街づくり

～社会貢献がつくる地域の活力～

2014年度の「社会貢献フォーラム」は、300名を超える参加者を集めて奈良市で開催された。主催の奈良新聞社・上田達雄取締役の挨拶に続き、元阪神タイガースの赤星憲広さんによるトーク、続いてコーディネーター(村松真貴子さん)を含む5名のパネリストに奈良女子大学の2名の学生が加わったフォーラムと進み、全日本社会貢献団体機構・松尾守人理事による挨拶で幕を閉じた。フォーラム後に赤星さんのサイン入り著書やボール、バットが当たる抽選会があり、会場は大いに盛り上がった。

主催:
全日本社会貢献団体機構/奈良新聞社/
全国地方新聞社連合会

後援:
奈良県/奈良県教育委員会/奈良市/
奈良市教育委員会/奈良女子大学/
NHK奈良放送局/奈良テレビ放送株式会社/
共同通信社/全日本遊技事業協同組合連合会/
奈良県遊技業協同組合



第一部 トーク

社会貢献にかける ～野球を通じた恩返し～

中心性脊髄損傷というケガにより、プロ野球選手を引退してから5年になります。引退直後は、現役に復帰したいという気持ちが強かったのですが、今はもう無理です。まだ、しびれが残っていますし、握力もなかなか元に戻りませんが、ケガのほうはだいぶよくなりました。いずれは指導者として復帰したいと思っています。

僕は現役時代の2003年に、毎年、盗塁した数だけの車いすを病院や施設に贈る活動を始め、引退後の今も、それを続けています。きっかけは、一人の女性と出会ったことでした。当時、彼女は21歳。僕がルーキーの頃から家族ぐるみで応援してくださっていた方ですが、骨肉腫という病気になり、足を切断するかどうかの岐路に立たされました。彼女のご両親から、「親としては一日でも長く生きてほしいから、手術の決断をしてほしい。もし、赤星さんが話をしてくれたら、娘は手術をすると思います」と言われました。

僕は彼女に、「キミに阪神の優勝を見せたい。だから手術して、元気になってもらわなくては困る」と言うと、「それなら手術をする」と、彼女は言ってくれました。「その代

わり、僕がキミの足となるような車いすを作る」と約束しました。その年、優勝したのですが、その直後に彼女は亡くなりました。結局、生前の彼女に車いすを贈ることは間に合いませんでしたが、葬儀で飾ってもらいました。きっと天国で喜んでいてくれたのかなと思っています。その年のオフから、盗塁の数だけ車いすを贈るという活動をスタートさせましたが、その意味で、彼女によってきっかけを与えてもらったと感謝しています。これまでに贈った車いすの数は、現役時代に301台、トータルでは400台を超えていると思います。



出席者プロフィール
赤星憲広さん
元阪神タイガース・野球解説者

1976年、愛知県出身。2001年阪神タイガース入団。2001～2005年、5年連続セ・リーグ盗塁王。2009年引退。2003年から盗塁した数の車いすを病院や施設に贈る活動を始め、引退後も「Ring of Red～赤星憲広の輪を広げる基金～」を設立し、車いすの寄贈を続けているほか、さまざまな社会貢献活動に取り組んでいる。

中山徹さん
奈良女子大学大学院教授

1959年、大阪府出身。京都大学大学院博士課程修了、工学博士、一級建築士。専門は都市計画学、地域計画学。奈良県産業教育審議会会長、奈良市総合計画審議会委員ほか。奈良県の商店街活性化、紀伊半島大水害の復興支援などに関わっている。主な著書は「人口減少時代のまちづくり」。

相羽宗一郎さん
奈良県遊技業協同組合理事長

1951年、奈良県出身。1983年、ピーマックス株式会社を設立し、代表取締役会長に就任。2011年から奈良県遊技業協同組合理事長。全日本遊技事業協同組合連合会理事、全日遊連近畿地区協議会副会長ほか。遊技産業を通じ、福祉避難所に非常用発電機を設置するなどの社会貢献活動に取り組んでいる。

第二部 フォーラム

奈良県内で行われている社会貢献活動事例紹介

村松 よりよい社会をつくっていくために、ボランティアや企業・団体による社会貢献活動は欠かせません。社会貢献活動を行うことで、人はどう変わり、地域はどう活力をつけていくのか、今日はみなさんと一緒に考えて

いきたいと思います。最初に、奈良女子大学の2人の学生さん、次に奈良県遊技業協同組合理事長の相羽宗一郎さんに、奈良県内で行われている社会貢献活動の取り組みの事例を紹介していただきます。

武智功さん
奈良新聞社 論説委員

1956年、愛知県出身。奈良大学文学部史学科卒業。1979年、奈良新聞社入社。文化事業部課長、大阪支社営業部次長、企画部長などを歴任し、1998年6月取締役就任。1999年、取締役総合企画室長兼文化事業部長。同年10月、論説委員を兼務。現在、取締役事業部長、論説委員。

村松真貴子さん
アナウンサー・エッセイスト

東京都出身。武蔵大学文学部卒業。SBS静岡放送の「テレビタ刊」でキャスターを務めた後、NHKの「イブニングネットワーク」「こんにはいっと6けん」「きょうの料理」などを担当。現在はNHK学園、NHK文化センター講師。2012年、「社会教育功労者表彰」受賞。

濱川真衣さん
奈良女子大学大学院人間文化研究科住環境学専攻2年(当時)

高原萌さん
奈良女子大学生活環境学部住環境学科4年(当時)

[聞き手:村松真貴子さん]

濱川 私たちは2011年秋の紀伊半島大水害で被害にあった奈良県野迫川村で復興支援活動を行っています。北股地区というところで深層崩壊の土砂崩れがあり、集落の方々が2年半、仮設住宅で避難生活を送りました。過疎化・高齢化が進む地域ですが、自然が豊かな村の魅力が村の人と一緒に発信したいということで、2年ほど前から交流を重ねています。お祭りでの屋台の手伝い、盆踊りへの参加、奈良市内の商店街での野迫川村のPR、地元食材を使った商品開発、都市部の男女を集めて田舎体験をしながら合コンをする田舎コンなどを実施しました。頻りに村を訪れることで、魅力を伝えようという意識が高くなっていますし、村の方々自身も改めて村の魅力に気づくことができるのではないかと思います、今後も交流を続けていきたいと考えています。



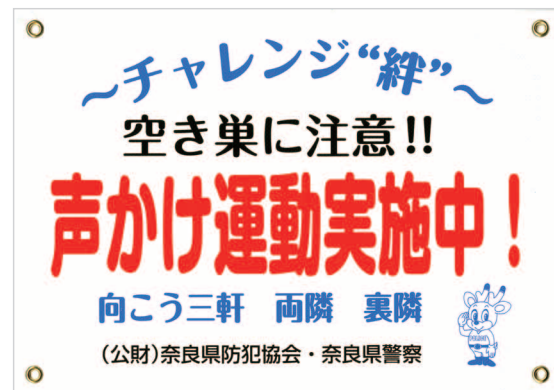
奈良市内の商店街で、野迫川村のPRイベントを行った

高原 私が所属する中山徹先生のゼミでは、奈良市内の商店街活性化のための活動を行っています。今年、特に力を入れたのは、JR奈良駅、近鉄奈良駅周辺の商店街で行われた「あるくん奈良 まちなかバル」という飲食イベントの参加者を対象としたアンケート調査です。また、奈良女子大学の学生と一般住民向けに、東向北商店街の魅力を知ってもらい、店舗利用に結びつけるためのツアーを実施しました。さらに、奈良女子大学の留学生に参加してもらい、外国人目線で外国人観光客の多い三条通商店街の魅力や改善点を探るワークショップを実施したほか、外国人観光客に道案内や店舗紹介をするガイドを行いました。日本人から見れば古風で歴史



ある看板も、留学生には古くて汚く見えてしまうなどの意見も出て、商店街の方々も驚いていました。奈良の商店街のいいところを少しでも多くの人に知ってもらいたいという思いで活動を重ねています。

相羽 私からは、奈良県遊協が行っている社会貢献活動を紹介します。2011年9月の台風12号で大規模な土砂災害に見舞われた五條市、十津川村、天川村などに県の共同募金会を通じて災害支援金を贈呈、さらに2年後にも復興のための義援金を贈らせていただきました。また、災害時に福祉避難所となる施設などに非常用発電機を贈る活動を続けています。2013年からの3年間で計80台を贈る計画です。さらに社会的弱者と言われる方々を支援するためのチャリティゴルフコンペを2001年から実施しています。2012年4月には、空き巣などの犯罪防止を目的に防犯協会や県警が中心となって行われた「チャレンジ“絆”」という声かけ運動に協力して、各戸の入口に貼る「向こう三軒 両隣 裏隣」と書かれた防犯シートを作成しました。今年の報告では犯罪が激減したと聞き、協力してよかったと思っています。



奈良県遊協が作成した防犯シート

人を変え、地域を変える継続的な社会貢献活動

武智 昔は「個より公」でしたが、最近は自己中心的な風潮になっています。そんななかで若い方々を中心に、少しでも世の中の役に立ちたいという考えが出てきています。その意味で奈良女子大の学生さんたちの活動は素晴らしい。仲間と一緒に地域の人たちと交流し、考えることで一人ひとりの成長につながると思います。以前、東大寺の僧侶に「喜んでいただける喜び」という言葉がうかがいましたが、それを社会貢献活動を通じて若い人たちが実感しているのではないのでしょうか。

相羽 社会貢献活動といっても、私どもの組合では、ほとんどが義援金や活動資金の提供だけです。そのことに一時、違和感やジレンマを覚えました。自分たちができることをすれば、それが人と人の助け合いにつながるのだと、最近を感じています。

赤星 奈良女子大のみなさんには、もっといろいろな人を巻き込んで、大きな規模でやってもらいたい。それが野迫川村や奈良市内の商店街の魅力をもっと知ってもらうことになる。社会貢献活動のやり方はいろいろあるし、人それぞれのやり方があっていいと思います。

中山 学生たちが地域に入ってさまざまな活動を行うことで、そこから生きた現実を学ぶという側面があると、いつも強く感じています。社会貢献活動は、それが単に地域にとってプラスになるというだけではなく、貢献する側も地域からたくさんものを受け取ることになる。社会貢献を通じて、地域の人も成長できるし、貢献する側も成長できる。そこに社会貢献活動の大きな意味があるのではないかと思います。

武智 社会貢献活動は人を変え、育て、人と人を結ぶ大きな力になると確信しました。それが、地域や社会を変えていく力になるのだと思います。一人ひとりがそれぞれの立場で、できることを続けていくことが大事です。

赤星 交野市チャリティマラソンもそうですが、地域のみなさんと一緒になってやり続けていくことが大事だと感じています。一生懸命がんばっている人の姿を見て、その地域の人たちが必ず何かを感じ取ってくれるはず。

やはり、継続することが一番重要だと思います。

中山 私は都市計画が専門ですが、街づくりの最終目標は人づくりだと思っています。自分の街のことを真剣に考える人を、どれだけ育てられるか。それによって、その街のよさが決まる。社会貢献活動というのは、その活動を通じて自分の街のことを真剣に考える人を生み出すために、非常に重要な役割を果たしていると思います。

村松 社会貢献活動には、人を変える力があります。勇気を持って、一歩踏み出すことが大切なのだと思います。そうすれば生きがいを持って、前向きに考えられるようになり、それによって周囲の人も、地域も元気になれるのではないのでしょうか。このフォーラムに参加してくださった方々が、一人でも多く社会貢献活動をやってみようと思ってくださることを願いながら、閉会したいと思います。きょうは、ありがとうございました。

フォーラムで出た意見を参考に有意義な社会貢献活動を継続

奈良県遊技業協同組合理事長 相羽宗一郎さん

今回、フォーラムに参加して、社会貢献や助け合いの大切さといったものを再認識するとともに、パネリストの方々の意見が今後の組合活動を考えるにあたって、大変参考になりました。

また、組合員の方々はもちろんですが、ホールで働く従業員のみなさんも新聞やテレビのニュースで今回のフォーラムの様子を見るといいと思います。組合や遊技業界がこのような活動をしているということに誇りを持っていただき、今後の仕事に生かしてほしいと思います。

奈良県遊協としては今後も、奈良県の福祉担当部署や県内の各社会福祉協議会などと協力しながら、公的支援が届きにくい施設や本当にお困りの方々の支援に力を注ぐことで、広く、深く、より有意義な社会貢献活動を続けていきたいと考えています。